

奈っ自慢子

子どもたちに身に付けさせたい力

主体性： **き** 気づく → **か** 考える → **う** 動く
 自立貢献： 自分ことは自分で、人のために行動する
 奈留小中学校 学校通信 9月号 文責 校長 寺脇 秀司
<http://narusho-chu.tn.goto-tv.ne.jp> 奈留小中で検索

校訓
教育目標

なせばなる なさねばならぬ なにごとも ならぬは 人の なさぬなりけり
 夢・実現 ~自ら学び 自ら生き方を切り拓き 夢を実現する児童生徒の育成~
 3つの力【つながる力】【わかる力】【えがく力】 **愛言葉** 団挨拶 **一** 生懸命 **二** 動く **三** 笑顔 **四** 思いやり **五** 考える **六** 気づく

9月

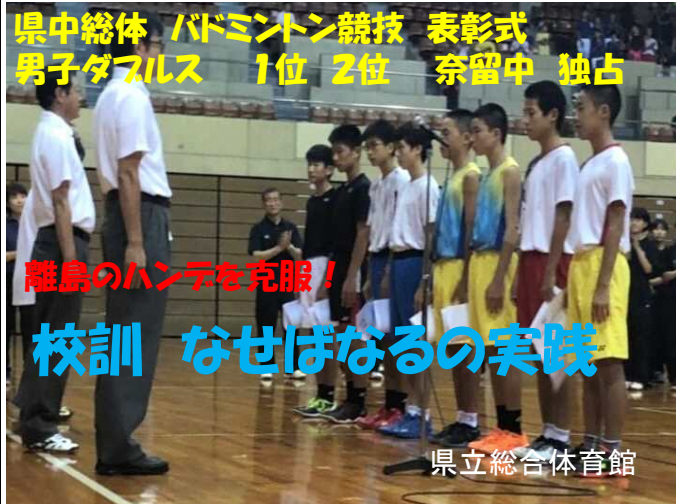
本校では子どもたちの表現力向上を目指し、俳句や短歌を創作しています。

リボンかな さわろうとすると 黒いヘビ 原塚 心菜 (小6)
 憧れる 雲のように になりたいな
 風にまかせて 湧く雲の峰 立石 茉穂 (中1)

2学期スタート

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。この夏休みは、大きな事故や病気もなく、子どもたちの「命を守る」行動や保護者の方の見守りのおかげであると感謝します。

始業式では児童生徒の作文発表が行われ、小学3年生岩村晴陽君は夏休みに宮の浜で捕まえたタコを刺身にして食べた話と2学期の目標、中学1年生の牧島祐也君は1学期の学級の課題をもとに立てた2学期の目標を堂々と発表しました。



校長講話では小学1年生から中学3年生までの年齢差のある子どもたちに、伝えるための工夫として、パワーポイント（文字や写真のスライド）を使用して講話を行いました。

まず、バドミントン部の九州大会出場等の子どもたちの夏休み中の活躍を紹介し、この夏の成長をたたえました。

以下講話の内容をご紹介します。

①校訓「なせばなる」を意識した行動をしよう。

校訓「なせばなる」の意味を確認、私がこの夏、読んだ本の内容を紹介し、

アメリカのイェール大学キャロル・ドゥエック氏の研究によると

人の能力は「一生懸命に努力をすれば伸びる」と思って生きている人と「そう思っていない人」を比べると人生において大きな差が生じる。

前者は努力して成長し、成果を上げることができ、後者はすぐに伸び悩み、自分の持っている可能性を十分に引き出せないという内容でした。「なせばなる」は科学で証明されていました。

そこで、全校児童・生徒に「努力したら伸びると思う人」と投げかけたところ、全員が挙手し、うれしく思うとともに、**一度っきりの人生だから、自分の可能性に挑戦してほしいと願いました。**

また、前期の子どもは校訓を言える。

中期の子どもは校訓の引用されている和歌を暗唱する。

後期の子どもたちは、和歌の暗唱と意味を言えるようになることを2学期の課題にしました。今、続々と校長室を子どもたちが訪れていますが、4年生の裕真君は校訓だけではなく、和歌も暗唱しました。

ひとまえりよく

②2学期の目標「自ら動く人前力」を身につけよう。

2学期は1年で最も期間が長く、学習や運動に敵した時期であり、行事が多いことと、1学期の反省から目標を決めました。この目標は、**気づき**—考え—自分から行動するという**主体性**を育てることと、**勇気**を出して**人前**で発表したり、行動できる子どもの**「人前力」**の育成をめざしています。

特に、今学期は、主体的行動を行うための「気づき」を育てることを全校で取り組むことにしました。

具体的には学活や授業で「今日の気づき」を教師が質問したり、校長室前に「気づき用紙」と「気づきの箱」を準備して、子どもたちの気づきを校長室に届けてもらう取組を始めました。連日、子どもたちから多くの「気づき」が校長室に届いています。



※子どもたちの気づきを紹介します。

- ・手術後の登校でみんながとても優しくしてくれたこと。さすが奈留だ。いい島だな～優しい人が多いなと思った。
- ・雨の日にカップを掛ける棒が出されてあった。カップで来た人は便利だし、ありがたいと思った。
- ・中庭にベンチがあった。川中さんに感謝。

*校務員の川中さん

が制作したベンチに小学1年生が座っている写真です。



③奈留小中の「愛言葉」の徹底

年度当初から取り組んでいる学校教育目標「夢・実現」に必要な7つの力を、より児童生徒や先生方に意識してもらうように「愛言葉」に改めました。「愛」には「人を大切にする。」という意味が込められており、全児童生徒・教職員の投票により決定しました。

前期集会が行われました。

2学期は各集会で教師が人生の先輩として、夢を語り、子どもたちに夢を持たせる取組を行います。早速、6日の前期集会で永間先生のお話がありました。「みんな大きくなったら何になりたいですか？」という問いかけから始まり、本校職員の小学生の頃の夢の紹介がありました。

永間先生の小学生時代は、意外にも、決して優等生ではなかったそうです。また、人前で話すことが苦手だったそうですが、今は学校の先生です。「人は変わります。」そのためには「たくさん体験することが大切です。」「失敗してもいいんです。」というお話が続きました。

最後に「先生たちはずっとみなさんの夢を応援します。」という言葉で終わりました。非常にわかりやすいお話でした。

※永間先生の話について、子どもたちの気づきを紹介しします。

- ・僕はできないことはもうできないと思っていたけど、たとえむずかしいことでもあきらめずにがんばりたいです。
- ・わたしは将来の夢を決めてないけど慶汰君

が言った「失敗は成功のもと」という言葉を忘れずにいたいと思います。

- 9月はすばやく気づいて、考えて、行動できるようにがんばります。永間先生の話のように失敗してもたくさん挑戦したいです。
- ・一輪車に乗れなくてすぐあきらめていたので、話を聞いてがんばりたいと思いました。
- ・永間先生がバレリーナになりたかったと聞いて、だからやわらかいということがわかりました。僕も夢を持ちたいです。

体育大会結団式

9月22日に開催される第12回奈留小中高合同体育大会の結団式が行われました。

まず、赤組、青組の高校生の団長に団旗が手渡され、早速、それぞれの組での練習が始まりました。

合同開催のメリットは小学生、中学生、高校生が「交流」することにより異世代の「接点」ができ、「絆」が生まれることだと思います。ちなみに今年のテーマは「和～勇気を出してあきらめず絆を深めよう。」です。

また、上級生がリーダーになり「自分たちの手で作り上げる」ことも合同開催のメリットだと思います。高校生が小中学生に指導する様子はとてもほほえましい光景でした。

令和初の感動的な体育大会にするために児童・生徒・職員一同がんばっていますので、22日は是非、御来校ください。

九州大会に出場しました。

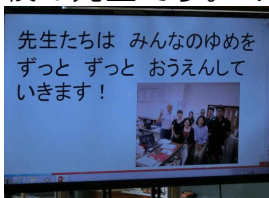
8月7・8日アクション福岡において九州中学校バドミントン競技大会が開催されました。本校から県大会を勝ち抜いた男子ダブルス 黒岩・谷内組と城山・夏井組が参加し両ペアとも見事初戦を突破して2回戦に進出しました。地域の方々からも「奈留島の誇り」というありがたいお言葉をいただきました。応援ありがとうございました。

※出場選手の気づき

- ・九州大会に行ってもそんなにレベルは変わらない。実力は紙一重。
- ・来年は全国に行きたい。
- ・気持ちが大事。気持ちで負けない。
- ・緊張した場面で、力が発揮できる選手になる。

※県中総体出場者（エントリーメンバー）

バドミントン男子：黒岩、谷内、窄中、城山
夏井、原塚、北川
バドミントン女子：葛島、田中、夏井
陸上競技：白浜（走幅跳：決勝進出）



先生たちは みんなのゆめを
ずっと ずっと おうえんして
いきます！



最後に「先生たちはずっとみなさんの夢を応援します。」という言葉で終わりました。非常にわかりやすいお話でした。

※永間先生の話について、子どもたちの気づきを紹介しします。

- ・僕はできないことはもうできないと思っていたけど、たとえむずかしいことでもあきらめずにがんばりたいです。
- ・わたしは将来の夢を決めてないけど慶汰君

